

まちづくりコーディネーターの活動状況について (1月20日現在)

1 活動報告

《令和7年度実績 14件》

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①6/24 刈谷市自治連合会勉強会【新規】 地域ヒアリングの結果等（小山自治会恩田4組、東刈谷自治会、築地自治会の取組事例）の共有	3	
	②8/5 自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会【新規】 「アジア・アジアパラ競技大会における地域の関わり方」をテーマとしたグループワークのテーブルファシリテーション	6	
	③8/11 中高生のためのボランティア入門講座【新規】 学生が刈谷のまちづくりに参画するための一助となるよう、夏休み中の中高生を対象に講座を開催した。	6	○
	④9/27 新体制への移行に関するフォローアップ(築地)【新規】 新体制の実情を確認する「振り返り会」を実施	2	
大学	⑤11/22 地域連携フォーラム 2025 (愛知教育大学)【新規】 座談会でのテーブルファシリテーション	6	
市	⑥8/4「共存・協働のまちづくり講座」(市民協働課)【定例】 グループワークに市民役として参加	6	
	⑦11/15 ファンドレポートの作成(市民協働課)【定例】 取材先：赤十字ハートフェスティバルⅢ ～たいせつな未来のために～	2	
	⑧11/22 ファンドレポートの作成(市民協働課)【定例】 取材先：子ども食堂にお祭りを届けよう	1	
その他 団体	⑨4/27 実行委員会のファシリテーション(ワールド・スマイル・ガーデンツ木)【定例】	2	
	⑩8/23 一里山福祉委員会座談会のファシリテーション(刈谷市社会福祉協議会)【新規】	2	
	⑪10/4 桜区福祉協議会座談会のファシリテーション(刈谷市社会福祉協議会)【新規】	2	
	⑫11/10 東刈谷福祉委員会座談会のファシリテーション(刈谷市社会福祉協議会)【新規】	2	
	⑬12/7「わがまちのつむぎ場」出展【定例】 (刈谷市民ボランティア活動センター) 参加団体同士の交流	4	○

	⑭1/18 東境福祉委員会座談会のファシリテーション(刈谷市社会福祉協議会)【新規】	2	
合計		46	2

《令和7年度予定 4件》

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①3/7 チャレンジフェスタやってみりん【新規】 刈谷西部自治会主催イベントの企画・運営に中学生とまちコクラブが協力	未定	○
市	②1/24 かりや夢ファンド補助金公開審査会でのまちコクラブ mini (市民協働課)【定例】 審議時間にて申請団体及び来場者と交流	未定	○
	③④ファンドレポートの作成2事業(市民協働課)【定例】	4	
合計			2

2 まちコ交流会

(1) 第1回

日 時：令和7年5月24日(土) 13:30～17:00

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ11人、元まちコ・つなぎの学び舎修了生5人、
一般6人(市民活動団体、学生ほか)、世話人2人、
市まちづくり推進課1人 計25人

内 容：第1部 まちとまちコの交流

第2部 みんなで住みたいまちを話し合う

(2) 第2回【詳細：資料1-2参照】

日 時：令和7年12月14日(日) 13:30～16:30

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ10人、一般7人(自治会長、つなぎの学び舎受講生ほか)、
元まちコ2人、世話人1人 計20人

内 容：第1部 まちとまちコの活動報告

第2部 ワークショップ「私が住みたいまち」を考える

3 つなぎの学び舎

(1) まちづくりコーディネーター養成講座


今年度は7月～2月の全7回講座。受講生は20人。第6回まで開講済み。

- ・第1回 7月5日(土)「まちづくりの想い、聴いて語ろう」
- ・第2回 8月2日(土)「話し合いの「ファシリテーション」とは」
- ・第3回 9月6日(土)「まちづくり活動の現場から学ぼう」
- ・第4回 10月4日(土)「まちづくり活動の企画をたてよう」
- ・第5回 11月1日(土)「話し合いの「場づくり」とは」
- ・第6回 12月6日(土)「つながりたい！広報の仕方を考える」
- ・第7回 2月7日(土)「わたし発のまちづくりを提案しよう」

(2) まちづくりステップアップ講座


既に「まちづくり活動をしている人(まちコ含む)」が実践に役立つ力を高めるための講座。今年度は6月、2月の全2回で、単発参加可能。

- ・第1回 6月8日(日)「共感や協力を得る方法」
- ・第2回【まちコ限定】2月21日(土)「企画会議 会議のデザイン、場づくりの準備～まちコ企画をやろう！～」



まちづくりコーディネーター交流会 令和7年度 第2回

まちとまちコの活動収穫祭



- 日時 2025年12月14日(日)13:30~16:30
- 会場 刈谷市民ボランティア活動センター
- 参加者 20名(まちコ・世話人11名、元まちコ2名、一般7名)
- 進行 全体:桑畑忠則さん
まちとまちコの活動報告:安部真さん
ワークショップ:原 保宏さん
- タイムキープ 水鳥 幸子さん
- アイスブレイク 鈴木 小枝さん
- ねらい
・「まちの活動」と「まちコの活動」をお互いに知り、まちとまちコが協働する姿を描く
- プログラム
・まちづくりコーディネーター(通称:まちコ)のご紹介
・まちとまちコの活動報告
・ワークショップ「私が住みたいまち」を考える
- 発表
東刈谷自治会長 亀田鹿雄さん
まちコ 小森義史さん、原 保宏さん、桑畑忠則さん

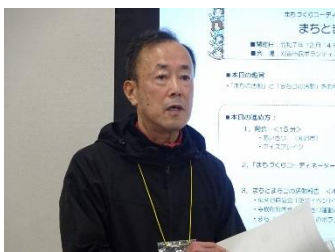
1. 開会

■開会あいさつ(刈谷市 市民協働課 遠藤)

- ・本日は「まちとまちコの活動収穫祭」にご参加いただきましてありがとうございます。本日のイベントは、まちづくりコーディネーター(通称:まちコ)の皆さんが市民の皆様にもまちコを知ってもらい、まちとまちコがつながるきっかけを作りたいという思いのもと、内容を企画し打合せを重ねてきたものです。
- ・興味を持って参加された方や、現在「つなぎの学び舎」に参加している方もいらっしゃいます。ぜひ、まちコの先輩方の活躍をご覧いただき、今後の活動の参考にしていただければと思います。



■本日の流れ(進行:桑畑忠則さん)



(配布資料・進行確認)

- ・自己紹介を兼ねたアイスブレイク、まちコの活動内容紹介、まちとまちコの活動3事例の報告、グループワークを予定しています。
- ・休憩時間にワークショップのテーマ投票をお願いします。8つのテーマの中から1つ選んでシールを貼ってください。投票数の多いものから5つ程度に絞り、グループに分かれて意見交換後、グループ毎に発表していただきます。

(注意事項など説明)

- ・お手元の資料はこの場限りのものとして、外部への拡散はご遠慮ください。会場後方にお菓子とお茶を用意しておりますので、ご自由にお召し上がりください。

■アイスブレイク(鈴木小枝さん)

- ・「今年一年を振り返って、嬉しかったことや感動したこと」をテーマに、グループ毎に自己紹介を兼ねて話し合いました。



2. まちづくりコーディネーター(通称:まちコ)のご紹介

■まちコの活動内容とR7派遣先一覧(市民協働課)

- ・現在「まちコ」登録者は25名。団体同士をつないだり、地域の会議の進行役を務めたり、地域活動やボランティア活動のお手伝いをしています。最近では、自治会から依頼を受け、定例会での問題提起や体制の再編検討な

ど、地域の課題解決に向けた伴走支援にも取り組み始めています。

- ・「刈谷いっぶく茶屋初陣」という活動は、昨年度春のまちコ交流会から生まれた企画を刈谷西部自治会とのコラボにより実施したまちコの自主活動です。
- ・令和7年度は、延べ34人のまちコさんが、11件の事業において活躍されています。まちコ世話人の塚本さんによる社会福祉協議会への紹介をきっかけとした派遣や、築地自治会への派遣など、新規の派遣が多いのが特徴です。

■R7 新規派遣事例の紹介(まちコ 小森義史さん)



・以下、3つの事例は、すべてファシリテーターとしての派遣です。それぞれの特色を簡単に説明します。

1)【依頼者:刈谷市教育委員会アジア・アジアパラ競技大会推進室／派遣先:自治連合会公民館連絡協議会合同研修会／派遣内容:テーブルファシリテーター／派遣者数:6人】

・メインのファシリテーターは推進室の方が担当されたので、まちコは各テーブルで進行が円滑に進むようお手伝いしました。これからファシリテーターを始める方にとっては、一番入りやすい形です。

2)【依頼者:刈谷市社会福祉協議会／派遣先:福祉委員会活動の活性化を目的とした座談会／派遣内容:進行役／派遣者数:2人】

・基本的に2人1組で派遣され、1人がメインファシリテーター、もう1人がサブという形で担当します。

・まず依頼先である社会福祉協議会と打ち合わせて企画書を作成し、それに基づいて座談会を実施します。その後、どのような意見が出たかを議事録にまとめて提出します。最も典型的な派遣事例です。

3)【依頼者:愛知教育大学地域連携センター／派遣先:地域連携フォーラム2025／派遣内容:グループ協議のテーブルファシリテーター／派遣者数:6人】

・ユニークな点が3つありました。1つ目は、各テーブルに必ず中学生、高校生、大学生、そして社会人が1人以上おり、全くの異世代で話し合ったということ。非常に新鮮でした。

・2つ目は、成果を求められなかったことです。参加者は話に集中でき、相手の話を聞き、自分の意見を言うことに専念できました。中学生や高校生も大人と全く変わらない形で議論ができました。

・3つ目は、メインファシリテーターがいなかったことです。各テーブルファシリテーターにすべてが任されたため、6つのテーブルで全く違う形で進行が進められ、ファシリテーターの個性が非常に出たのではないかと感じました。

【Q&A】

Q:最後のお話で、ファシリテーターの個性が出たとのことですが、例えばどんな違いが出て面白かったですか？

A:参加者による違いもありますが、意見が全く違いました。それをどのように聞き出し、進行していくか、どこに焦点を当てるかという点に違いがありました。最後に大学生が話し合いの内容や自身の感想を発表してくれましたが、その内容がテーブルごとに全く異なり、それぞれがユニークな発表でした。

3. まちとまちコの活動報告

■「まち」の活動事例

「防災イベントで、助け合えるつながりをつくる」東刈谷自治会長 亀田鹿雄さん

・活動して5年目になります。東刈谷地区は新興住宅街で、現在5000世帯ほどあります。自治会加入率は60%程度で、少しでも上げようと、野田公園で防災イベントを実施しています。

・防災イベントは「面白くない、楽しくない、美味しいものが食べられない」という理由で人が集まりにくいのが課題です。そこで、人がたくさん集まる「盆踊り」を参考に、美味しいものが食べられるキッ



- ・チンカーや屋台、また歌や踊りのステージなど五感が満足するようなお祭りの要素を取り入れることにしました。
- ・東刈谷は全国から人が集まる新興住宅街で、日ごろのコミュニケーションが不足しがちです。イベントをきっかけに話ができる場を作ることが重要です。隣の人との挨拶や会話が自然に生まれるような運営を工夫しました。
- ・防災訓練ブースでは、AED の使い方や簡易トイレの組み立てなどを体験し、「できるようになった」という喜びが楽しさにつながるよう工夫しました。
- ・東刈谷商店街や地元企業・地域団体とコラボレーションの結果、様々なブースの出展がありました。イベント後の協力者アンケートには「株式会社ジェーオーのブース参加で外国人の来場者があった。とても良い変化だと感じました」という意見もありました。こうした変化を作り出しながらスパイラルアップを図っています。
- ・参加者アンケート結果（R7年度）では、地震が起きたら指定避難所へ行くと考えている方が過半数を超えていましたが、避難所の収容能力には限りがあるため、在宅避難の必要も伝えています。
- ・災害時に一番困るのはトイレです。食べることよりもトイレが大変です。また、地震で最も死亡率が高いのは圧死です。倒れにくい家に改善する必要性に気づいてもらえるよう働きかけています。
- ・その他、東刈谷地区に新しく来られた方が挨拶に来るのを待つのではなく、役員の方から訪問し、「ようこそ東刈谷地区へ」という転入者歓迎・啓発ガイドを使って説明しています。

【Q&A】

Q: 転入者の情報はどのように得られるのでしょうか。

A: 一番近い班長さんが情報を仕入れることになっています。10 から 15 世帯の範囲であればどこに家を建てたかなどは目で見て分かりますので、必ず転入者歓迎・啓発ガイドを持って行ってくださいとお願いをします。ですから、班長は皆この資料を持っています。

→引っ越して来た方も、不安が多く誰に聞けばいいのか分からない状況で、素早く対応される点は実践的で素晴らしいと思いました。

(市民協働課) 避難所は、地域の皆さんで協力して運営することを周知いただけるのは非常にありがたいことです。

→配布資料は、市の危機管理課と相談しながら作成しており、行政の考えも取り入れています。

Q: 現在外国人の方はどれくらい増えているか、対応される中でのご苦労があれば教えてください。いかに巻き込むかが大事かと思います。

A: 刈谷市人口約15万人のうち、3.9%が外国人です。外国人が増えているので、多文化交流として、その国の人たちも一緒に防災に取り組もうとしています。

先日、外国人を雇用している企業の経営者の方から、イベントに参加させてほしいと申し出がありました。まずは地域のゴミ拾いから取り組みたいという素晴らしい発想です。こちらからお願いするのではなく、来ていただけたのは、まさに理想的な環境に近づいてきていると感じています。

「あいさつ運動&冬フェス クリスマスマーケット」 寺横町町内会長・まちコ 原保宏さん

・今年5月の「まちとまちコの交流会」で、「若者とお年寄りが気軽に交流できる町」という意見を書き、そのためにまず挨拶から始めたいと提案したことがきっかけで始まりました。

・まず、組長3人とのミーティングで挨拶運動とイベントの開催を検討し、6月末の町内役員会議で提案しました。様々な意見が出ましたが、まずは試しにやってみようということで承認されました。

・挨拶運動の目的は、地域のコミュニケーションの活性化と犯罪抑止力の向上です。朝の登校時間に挨拶運動を行った結果、最近では子どもたちの方から「おはようございます」と大きな声が返ってくるようになりました。

・クリスマスマーケットの目的は「人と地域を繋げるまちづくり」と「世代を超えた交流」です。出店者が決まり、回覧板を回したところから、役員も町内の皆さんも、気分が盛り上がってきました。

・集客のため、ゴミゼロ運動の参加者に100円の割引券を、子ども会会員に子ども会から1000円分の金券を配布したところ、割引券の回収率は43%、子ども会金券の回収率は100%でした。



- ・当日は笑顔あふれる場となり、住民同士の交流が図れたこと、役員の絆が深まったことがクリスマスマーケットの成果として挙げられます。私自身も、行政との関わりやネットワークの大切さなど、運営面で多くのことを学びました。
- ・しかし、課題もあります。新しいことを始めたことで町内会役員の業務が増え、今回は私が中心で出店者や協力してくれる人を集めたため、次の担い手がいないのが現状です。来年の担い手探しが大変です。
- ・地域住民の方から「駄菓子の差し入れ」という嬉しいサンタさんが現れるなど、予想以上の反響がありました。出店者の農園の方から相談され、畑で野菜を作るプロジェクトも始まっています。今後は中高生との連携を考えていきたいです。

【Q&A】

Q: 素晴らしい活動の中で、課題として業務が増えたとありましたが、原さんの力で多くの方を巻き込んでいるので、来年以降の展望があればお聞かせください。

A: 今回参加した役員さんから「またやってほしい」「やってもいいよね」という声が生まれています。実際、業務は増えましたが、皆が楽しんでやっていたので、それはそれで良かったのかなと思います。

Q: 特に大変だった業務は何ですか？この協働相手への連絡などは、原さんが全部一人で担当されたのですか？期間はどのくらいかかりましたか？

A: 連絡調整は全て一人でやりました。集会所の利用許可は歴史博物館へ企画書を提出し、公園の利用については公園緑地課へ、子ども会への連絡など、関係各所との調整が一番大変でした。

6月末に承認を得て、実質的に動き出したのは9月からです。主な活動期間は9、10、11月の3ヶ月間です。役員会議では賛否両論ありました。フリーマーケットやバザーのようなイメージで考えていた人もありましたが、出店者が決まってからは「クッキーを販売するの?」「子供の雑貨を販売するの?」「割とおしゃれじゃないか」と予想とのギャップがあったという声が聞かれました。老人会からも「何をやればいいのか」と相談があり、声をかけてもらって参加につながりました。「野菜が安く売っているよ」という口コミで、買いに来た人もいました。子ども向けの企画も非常に好評です。

(亀田さんよりコメント) 東刈谷では防災備蓄品を有効に利用しています。備蓄品なら費用はかかりませんので、参考にされても良いかと思います。

A: ありがとうございます。クラッカーなどの備蓄品の話は出ましたが、今回は防災とは区別することにしました。

■「まちコ」の活動事例

「中学生のボランティア活動『やってみりん』」 まちコくらぶ 桑畑忠則さん

- ・タイトルは「チャレンジフェスタやってみりん」、サブタイトルは「いまこそ若い力にスポットライトを」です。今回が1回目ですが、この先を見据えた活動事例として考えていければと思います。
- ・まちコくらぶの平均年齢が少し高いことや、新規メンバーの加入が少ないことなどで悩んでおり、この先、少子高齢化がまちコくらぶにも影を落とすのではないかと懸念がありました。
- ・昨年参加した刈谷市の「燎(かがりび)」というイベントで、高校生が多く参加していました。また、防災活動では中学生も戦力になりそうだという話も聞こえてきました。大学生はかなりしっかり意見が言えますし、最近では小学生も地域の活動に興味を持っているようです。10代の可能性とパワーに期待を感じました。
- ・中学校の部活動が地域へ移行する動きや、学校の先生方の働き方改革といった話もあります。そうした中で、中高生の放課後の受け皿として、「まちづくりボランティアのクラブ活動」があってもよいのではないか、という意見が出てきました。
- ・そこで、中高生向けにボランティアの楽しさを伝えようと基礎講座を企画しましたが、学校訪問が夏休みの直前になってしまい、周知期間が取れなかったため、参加者が集まりませんでした。



- ・反省会では、大学生から「そもそも今どきの若い子に講座をやること自体がだめ」と厳しい指摘を受けました。そこで、まずは中高生が「楽しい」と感じるような実体験からスタートすることに方針転換し、イベントの企画・運営から関わって、活動の楽しさを実感してもらうことにしました。
- ・具体的には、刈谷西部自治会と連携し、自治会主催イベントの企画・運営に中学生とまちこくらぶが協力するという形です。
- ・今回は刈谷東中学校の生徒さん 6 名が応募してくれました。11月にイベントのテーマを検討し、約 20 の案からゲーム、ものづくり、スポーツ、お店の出展など 6 つに絞り、現在計画を練っている最中です。中学生が 1 時間ほどで企画書を作成したのは驚きました。
- ・活動費用約 22 万円は、主催である刈谷西部自治会が活用できる「笑顔あふれる地域づくり補助金」で行います。
- ・中学生は自分のテーマに関する ToDo リストを作成、さらに詳細化し、1月に手配、2月にリハーサルを行い、3月の本番に臨みます。定例会を月 2 回に増やして進めていきます。
- ・活動を通して、まちこくらぶの活動が幅広い年齢層の方に受け入れられる可能性を感じています。

【Q&A】

Q: 刈谷東中学校の生徒 6 名が手を挙げてくれたとのことですが、応募ゼロだったところから、どのような工夫をして参加に繋がったのでしょうか。その 6 名は仲の良い友達同士で来てくれたのでしょうか？

A: 学校訪問やチラシの配布、インスタグラムの活用などを行いました。今回はイベント本番までに十分な周知期間が取れたことが大きかったと思います。友人同士もありますが、全員が同じクラブやクラスというわけではなく、バラバラです。たまたまですが、男子 3 人、女子 3 人という構成です。

Q: 声をかけたのは刈谷東中学校だけですか？参加者が刈谷東中学校に偏った理由は何かありますか？

A: 刈谷東中学校、刈谷南中学校、刈谷高校附属中学校の 3 校にお声がけしました。おそらく、学校ごとのテスト期間や部活動の大会など、様々な事情がある中で、たまたま刈谷東中学校の生徒さんはタイミングが合ったのだと思います。

Q: 自分たちから「やります」と手を挙げてくれたのですね。まちづくりに興味があるような感じですか？

A: 企画について意見を求める姿、受け答えの様子を見ていると、まちへの問題意識というよりは関心がありそうに感じます。他の中学校でも、地域のイベントに参加している生徒はいるようなので、中学生でも地域活動に興味を持っている子はいるようです。



■ワークショップの案内とグループ分け

・これから休憩の間にワークショップの準備をします。「私が住みたいまちを考える」というテーマで、グループワークを行います。8 つのテーマから、ご自身が興味のあるテーマにシールを 1 人 1 枚貼ってください。その結果から、グループ分けのテーマを 5 つほどに絞りたいと思います。まずは皆さん、青いシールを貼ってから休憩してください。

4. 「私が住みたいまち」を考える

■私が住みたいまちに向けて、意見交換&ワーク（進行：原保宏さん）

・テーマの集計結果を発表します。投票数が多かったのは以下の 4 つです。各テーブルに移動してください。（以下の括弧内はテーブルファシリ担当）

1. 車を運転しなくても暮らせるまち（鈴木小枝さん）
2. 何にでも挑戦できるまち（安部さん）
3. 若者がまちづくりに関わるのが当たり前なまち（石田さん）
4. 明るく楽しく笑顔でおしゃべりができ、仲間づくりができるまち（岡さん）



■みんなで住みたいまちを話し合う

- ・各テーブルに A1 の紙と付箋を用意。各テーブルのテーマに沿って、テーブルファシリテーターを中心に意見交換を進め、各グループでまとめた内容を発表します。

■発表

テーマ: 明るく楽しく笑顔でおしゃべりができ、仲間づくりができるまち

[やること(やりたいこと)] 徒歩圏内で人が集まれる場所を作ること

[ゴールイメージ] 徒歩圏内で幼児から高齢者、そして国籍を問わず、どんな人でも集まれる街を作っていくことです。

[幸せ] お互いを思いやれたり、自分のスキルを活かしたり、困った時に助け合えたり、どこに行っても、人が集まって何かやっているのが当たり前で、特別なことではないムードのまちがいいねと話し合いました。

- ・具体的には、図書館の活用を考えました。市民館も身近な施設ですが、車がないと来られない人も多いため、いろいろな場所を活用したいです。

小学校区ならば小学生でも通えます。学校図書館で世代を超えた交わり、高齢者も小学校を活用できるなど、さまざまな公共機関でそのような雰囲気が作れるとよいです。

- ・もう一つは、市民のお宅です。子どもが独立して空き部屋があるような広いお屋敷を利用する案も考えました。
- ・徒歩圏内の場として、健康の維持のためにラジオ体操で集まることから取り組みたいです。はじめの一步はなかなか難しいですが、まずは一步踏み出すことでルールが敷かれていくようになるといいなと思いました。
- ・そこに行くことが特別なことではなく、日常の中でふらっと立ち寄れる場所として、皆で顔を合わせて話ができるようになるといいなとイメージしました。



テーマ: 何にでも挑戦できるまち(できる場所がある+一緒にやれる人がいる)

- ・やりたいことを言えて、試せる場所があり、少しだけお金や時間を後押しする仕組みが揃っていること(=場と人と仕組み)をイメージして話し合いました。

- ・そのためには挑戦したいことを話せる場が必要です。共通の話題が話せる人や場所、話し合いの交流の場づくりをしていきます。大きな挑戦の前にスモールステップでアイデア出しをしたり、ちょっとしたプレゼンをして「それ、私いいと思います」みたいなボードを上げたり、そういった交流をする拠点として、公民館の利用を考えました。

- ・また、若者がチャレンジできる場所として、古民家の活用が話題となり、半田市にある「コココリン(cococorin: 半田市創造・連携・実践センター)」という、若者がチャレンジする場が紹介されました。どんな仕組みやしき、人の動きによって集まっているか、若者も一緒に皆で視察に行きたいね、という話も出ました。

- ・取り組む人の幸せが、同時に孤立している人、家から出られない若者にも良いきっかけになって。たとえば、「演歌を外国人と一緒に歌いたい」というのも多文化交流として面白いんじゃないかという話が出ました。

[助けになるもの] まず自分が発信することです。発信や行動が、一緒にやりたい人を呼び寄せるにはまず必要だからです。



・そのために「市民チャレンジ助成金」といった資金支援や、企業から協賛やアドバイスを受けられるなど、市役所と企業の双方が応援する「チャレンジアワード」のような取組があると励みになると話し合いました。

テーマ:若者がまちづくり(地域活動)に関わるのが当たり前のまち

・自分の行動でまちを動かす経験ができる、そんなゴールイメージを持ちながら、刈谷市民の全員がふるさとを誇りに思えるようになったらいいなと考えました。

[妨げになるもの] 習い事が多く子どもたちが参加する時間の捻出の難しさや、お金の問題などいろいろあります。

[助けになるもの] ここにいる皆さん全員で、まちコ、まちコくらぶ、地域学校協働活動推進員の方や学校の先生たちなどの助けをお借りしながら、ゴールに向けて取り組みたいと考えました。

・若者が意見を言うしくみとして「まちづくりクラブ」という部活動を作ろうと話をしました。次のまちコ交流会までに、まちコ自身が地域のクラブを設立することを目指します。まずは、交流会にオブザーバー参加してもらうため、市内の学校への呼びかけを考えています。

・子どもたちを地域活動に巻き込むベースとして、地域にクラブ活動やボランティアができる場を設けることで、具体的に進めていきます。さらに幅と深さを広げて進めていくことでテーマにたどり着けるのではないかと考えます。

・今の子どもたちは塾、スポーツなど選択肢が非常に多いです。また、自己肯定感が低く、受け身な子どもが多いのではないかと感じています。6人の中学生は非常に希望が持てます。まずは1度やってみて、活動拠点を設けていくことも視野に取り組んでいきたいです。



テーマ:車を運転しなくても暮らせるまち

[やること] 「コンパクトシティ、歩いて行けるまち」

[ゴールイメージ] 車を共有する仕組みがあり、高齢者・障がいのある方・車を使わない小中高生などが住みやすいまち、そして車を持っている人も幸せなまちを目指します。

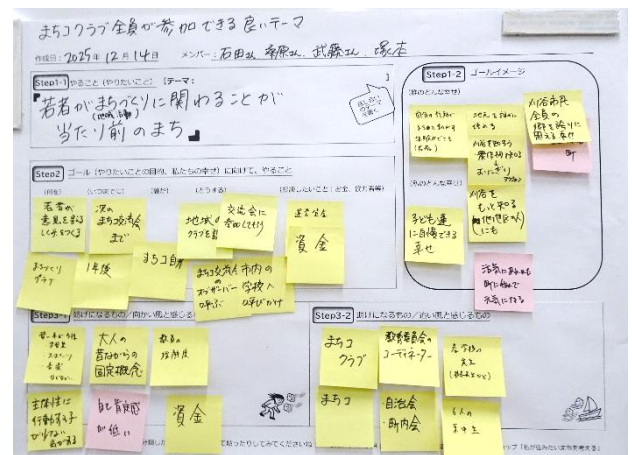
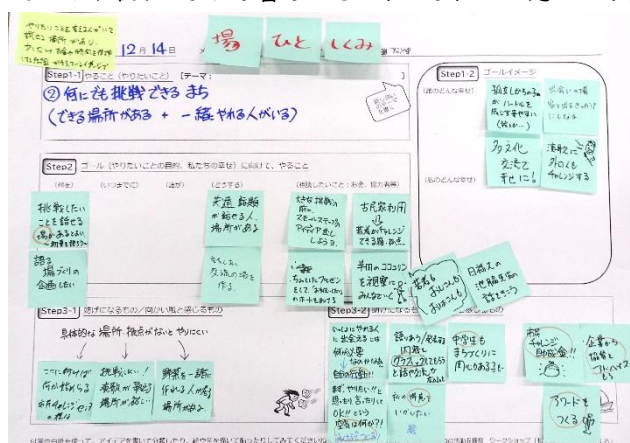
・名古屋市のように公共交通機関が発達しているのが理想ですが、刈谷市ですぐに実現するのは難しいです。そこで、すぐにできることを考えました。

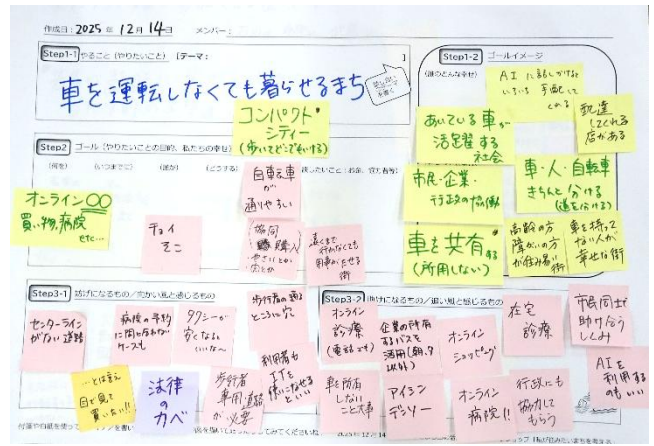
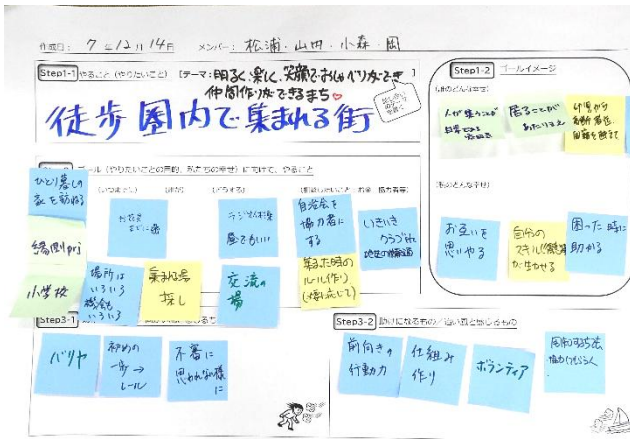
[現状の困りごと] センターラインのない道路での自転車や歩行者の移動のしにくさ、タクシー料金の高さ、側溝の蓋の穴でつまづく危険性などがあります。また、白タクが法律で禁止されているため、市民による有償での送迎ができないという壁もあります。

[対策] アイシンやデンソーといった企業の送迎バスの活用、オンラインショッピングや在宅・オンライン診療の有効活用が考えられます。

[すぐにできること] 地域で協力して送迎を行う「チョイソコ」のような仕組みを市全体に広げること、自転車が通りやすい道を整備すること、私たち自身が車の利用を控えるといった啓発活動も必要です。

・遠くへ行かなくても用事が済むよう、地域内でのコミュニケーションを活発にし、野菜の共同購入など、地域の人たちとやり取りしながら暮らせるようになればと思います。





■今後について(桑畑忠則さん)

・皆さん、お疲れ様でした。今日は参加して、とても楽しかった印象です。楽しむことは、脳が活性化されているいろいろなアイデアが出やすくなるのだらうと思います。せっかくのアイデアをこの場限りにしてしまうのは大変もったいないです。今日のテーブルのメンバーで活動が続けるのも良いですし、それぞれの地域で活動を広げていただいても良いです。今日議論されたテーマで何か足跡を残せるよう取り組んでいただけると嬉しいです。交流会は半期に1回続けていきますので、またぜひ次回、途中経過でも良いので話題提供をしていただけると嬉しいかなと思います。

■チェックアウト

・テーブルごとに5分ほどで、今日1日の感想、感じたことなどをテーブルの仲間同士で共有しました。

■まちコクラブ PR(鈴木小枝さん)

・毎月第3土曜日の15時から17時まで、この場所で「まちコクラブカフェ」を開催しています。皆さんの困りごとを聞いて、解決する方法を一緒に考える場です。「好きや得意をみんなが持ち寄って、まちづくりを楽しんでやっぺいこう」というテーマで話し合いますので、まちづくりを一緒に進めたい方、ぜひお友達を誘って集まっていただければ嬉しいです。

■閉会(刈谷市 市民協働課 遠藤)

・本日は「まちとまちコの活動収穫祭」にご参加いただきありがとうございました。事例発表もグループワークも、もっと聞きたいと思うほど素晴らしい内容でした。
 ・1月24日(土)12時半から、「かりや夢ファンド補助金」の公開審査会を行います。高校生以上の方は投票に参加できます。また、2月14日(土)13時半から「わがまちのしゃべり場」を開催します。今回はお祭りやスポーツをテーマにゲストをお呼びし、ざっくばらんに語り合う会にしたいと思っています。よろしければご参加ください。本日は本当にありがとうございました。

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【部会の協議方針】

- ・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会等で取り組まれるとよいことについて検討する
- ・課題が具体的にになっている地域をモデルに取組を考える

- 1) まちづくりコーディネーターによる伴走支援の実施
令和6年度：打合せ7回、築地自治会定例会への派遣5回（7月31日～3月8日）
令和7年度：フォローアップ1回（9月27日）

- 2) 担当まちコ：桑畑、川本、鈴木（3名）

- 3) 取組みの詳細：以下、テーマ5の通り。

※マーカー部分は、「共存・協働により取り組まれるとよいこと」の好事例や種となりうる事柄である。

テーマ

5

自治会活動業務を分担し、各々が主体的に関われる体制に

自治会活動では、一部の役員に負担が集中するという問題が生じがちです。「自治会行事が同じ内容になってしまう」「企画に知恵を借りたい」という相談が、築地自治会長さんから市民協働課に寄せられたのを機に、そのお悩みを整理していくと、「自治会長の業務が多すぎる」「自治会長の負担が大きすぎると、後継者探しも難しくなる」といった状況が見えてきました。そこで、「現在自治会長が担っている業務を整理し、役割分担を見直して、皆で協力して活動できる体制にすること」を目指した取組みを行うこととしました。

市民協働課では、地域でこの問題を検討・改善するサポートとして、まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）を5回派遣。まちコは、毎月の定例会におじゃまる形で、「自治会運営のありたい形」を役員皆で考え、役員内で業務を分担する体制づくりに向けて協力しました。令和7年度より新体制（部長制）で動き出した結果、各部長を中心に少しずつ主体的な運営が可能となり、活発な議論や行事内容の改善・工夫、また負担の平準化につながりました。

築地地区 基本情報	2,834 世帯（R7.4.1 時点） 内、自治会加入世帯 1,931 世帯 （全 13 組）	なじみやすい地域のタイプ ^① （状況）
		<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担を見直したいと考えている ・人材育成に力を入れたいと考えている ・行事がマンネリ化している



ポイント 1

外部応援者を受け入れられやすい状況をつくる

令和6年7月に、築地自治会長さんから市民協働課が相談を受けると、築地自治会を応援してくれるまちコを募り、築地自治会長・まちコ・市民協働課の三者でお悩みを整理することからスタートしました。すると、当初の相談テーマであった「自治会行事が同じ内容になってしまう」という主要因は、就任3年目となる自治会長に企画・調整・細かな事務作業までほぼ全ての業務が集中して、企画等に手が回らないことにあるという構造が見えてきます。そこで、この現状を役員さんに共有し、本来どんな形がよいのか自分ごとで考えてもらい、それを形にすることを目指そう、ということになりました。第1回目の訪問は12月、以降毎月定例会を訪問して体制を検討し、新年度は新たな体制で始動、とサポートの方針は決まりました。

問題は、役員の方々が、まちコのような外部の応援者を受け入れ、変えていこうという気持ちになってくれるだろうかという点でした。そんな折、次年度から役員が担ってきた市民だよりの配送がなくなる制度変更がありました。

ならば、「次年度から役員の業務量が減る状況がある、他方で業務を抱えている人もいる。これを機に、自治会業務の見直しをしてみよう」という話し合いなら、自分ごととして話し合えそうだ。そこに「まちコが相談に乗ってくれるよ」というスタンスがよいのではと三者で考えが一致。会長さんが業務を様々兼務している状況を資料でも示し、「全部やってしまっていたけれど、皆で分担する形になるとうれしい」と、率直に気持ちを分かち合うことも重視することにしました。

ポイント 2 / 発言が出てくると、ネガティブな意見は少ない

定例会でまちコが関わる部分の話し合いは、30分～1時間程度。派遣当初の定例会では、役員の発言は少なくはないものの、自治会長からは「指示」、「役員」からは伺いが多い様子が見受けられ、「こんな風にしたい」という意見はあまり出てきませんでした。そこで、日頃自治会活動・業務について感じていることをざつぱらんに話してもらうよう促すと、以下のような想いを持った発言が出てきて、ネガティブな意見は少ない状況が生まれます。

- ・自治会活動が住民に浸透していないため、回覧以外にもPR活動をもっと増やすとよい。
- ・自治会長、組長、班長になりたくない人が多いのは、イベントが多すぎるから。見直しが必要ではないか。
- ・文化祭、敬老会など同じようなイベントをやっており、合体できるのではないか。合体すると数も減るのではないか。
- ・皆で意見を言い、皆で考えよう。

元々、「自治会長さんがやり過ぎている・頼りすぎている」と役員さんが感じていた様子もうかがえました。また、他自治会の事例を知ることで新しい視点も見えるのではないかと、他地域で自治会長を務めるまちコにも協力してもらい、「私の自治会では、イベントを行う時は担当役員が中心となって進めていく。自治会長は全体の進捗を確認したり、相談にのる役割が中心だよ」といった紹介も行いました。

自治会長の想い、役員の想い、そして他自治会の取組み例を参考に、表のようなステップで体制の見直し検討が進んでいきました。

■ 検討・改善の大まかな流れ

時期	主な内容	左記のための準備
派遣初回までの打合せ		築地自治会と他自治会の組織体制比較 定例会での問題提起の仕方の検討
12月、1月	自治会活動の業務の現状、問題意識の共有	<各定例会に向けた準備> 新体制に向けた統廃合案作成 新体制における各部門の担当者案作成
2月	体制の見直し (部門の統廃合、各役員の担当部門決め)	
3月	各部門の活動内容の明確化 班長・各種団体の協力範囲・巻き込み方検討	
4月	上記を反映した新体制でスタート	
9月	新体制の実情を確認する振り返り	



ポイント 3 / 活動体制の見直し ～部長制へ移行～

「継続すること・変えること・やめること」の切り口で前年度の活動体制を見直し、新体制を構築しました。活動の実績をふまえ、業務の平準化を意識して部門や委員を統廃合した結果、防災部などが新設されました。見直した体制には、担当者名も載せることで、各担当者が自分ごととして認識・行動できるようにしました。

【令和 6 年度】

【令和 7 年度】

部門		部門	主な役割
防犯部	統合 ※交通安全部を吸収	防犯部	防犯パトロール、交通立ち番、ゼロの日
交通安全部			
児童福祉部	統合	福祉部	敬老会の企画・運営 一味会（いきいきクラブ）や民生委員・ 児童委員等との連携
成人福祉部			
少年部			
体育部	継続	体育部	運動会の企画・運営
文化部	継続 ※文化祭は中止（敬老会と重複）	文化部	夏祭り（盆踊り大会）の企画・運営
広報部	名称変更	情報宣伝部	自治会活動の PR
－	新設	防災部	防災訓練等の自主防災会活動

※築地自治会では、組長が部長・副部長として公民館行事（敬老会・運動会・夏祭り）の運営に携わっている。

これにより、新年度は、各部長を筆頭に部門単位で活動する体制がスタートしました。部長制の導入によって、各行事開催に向けた会議体も複数でき、メンバーが主体的に運営に関わるようになりました。

9月に新年度の変化を中間的に振り返ったところ、上記以外にも各部門で、こんな変化が生まれてきました。

■ 部長制に移行したことによる変化

部門	生じた変化
文化部	【夏祭り】役員が主体的に運営に関わり、地区のことがよく理解できるようになった。
福祉部	【敬老会】運営方法の改善、工夫に取り組めた（弁当配布や受付対応等）。
体育部	【運動会】競技の進め方について議論の時間を設けられた。 班長や協力員と早期から打合せができ、皆でつくる意識が醸成された。 協議の場と承認の場を分けたことで会議回数が多くなったため、整理する必要あり。
防災部（新設）	【防災訓練】従来の固定化された内容から脱却し、意見をまとめて方向性を決められるようになった。役割を割り振った分、役員の集まる回数は増えたが、自治会長ら4役の負担は平準化された。
情報宣伝部（名称変更）	【広報誌「ネットニュース」の制作・発行】 ・回覧にかかる時間を考慮し行事のアナウンスのタイミングを検討した。 ・カラー印刷の写真が目にとり紙面となり好評を得た。

ポイント 4 役員の組織への関わり方・意識の変化

9月の振り返りでは、各部門での変化・成果と共に、自治会運営全体に関わる課題についての発言も出てきました。例えば、役員の業務にパソコンスキルが求められる状況や、今年の部ごとの活動や反省点を記録し、来年度以降に引き継げるよう「（誰もが役員になれるように）パソコンに詳しい人とペアを組む」、「データをクラウドで管理する」、「地域の若者に有償依頼」、「デジタル部の新設」等の提案が出され、前向きな意見交換が行われました。

また、自治会長の意識も変化し、振り返り会では、このようなコメントが語られました。「元々、皆さんは力を持っておられます。今回部長制に切り替えたことで、その力を出してもらうことができました。私自身、これまでそのような関わり方ができておらず、『自分がやらなければならない』という思い込みのもとで動いていました。これまでの自治会長も同様で、その結果、活動が個人に依存する形となり、物事がなかなか前に進まない状況が続いていました。

今回班長さんを加えて、地域のことを一緒に考えるようになってから、ものすごく進展しました。協力の形がどんどん増えてきていると実感しています。」自治会長が役員のを信じて各行事を任せられたことも、彼らの意欲や責任感を引き出すきっかけになったことでしょう。

イベント運営の改善ができた

敬老会に文化展を組み合わせることで無事に開催できました。部長と常に相談しながら進めた結果、運営方法の具体的な改善点として、「①暑い時期のため弁当を饅頭に変える」、「②女性の会の負担を減らす」、「③受付と記念品配布を一体化し、チェック表を用いる」ことで来場者対応の間違いがなくなりました。当日来られなかった人にも役員の方のおかげで、記念品を届けることができました。

昨年のことは全く知らない中で関わりましたが、分からないことは部長が自治会長に確認して自分たちに展開してくれたためやりやすかったです。意思決定も部に移譲され、自立的な運営が実現したこともあり、来年以降は部単位で継続的にうまく運営ができそうです。

福祉部副部長

